

「児童精神医学の領域からのポイント」



九州大学病院
子どものこころの診療部 特任教授

吉田 敬子 (よしだ けいこ)

1979年 九州大学医学部卒業 小児科学専攻
1983年 九州大学精神科 子どもの精神医学専攻
1988年 英国モーズレー病院 児童精神医学部門
1990年 ロンドン大学精神医学研究所
1992年 同研究所研究職員 周産期精神医学部門
妊産婦の精神薬物療法と子どもの発達の子後を研究
1997年 九州大学病院精神科 助教
ロンドン大学精神医学研究所 准教授
2000年 九州大学病院精神科講師
2009年 こどものこころの診療部 特任教授

日本精神神経学会 精神科専門医
日本児童青年精神医学会 認定医
日本乳幼児医学・心理学会 理事 編集委員
Archives of Women's mental Health * 学会誌編集委員
(* Archives of Women's Mental Health : Official Journal
of the International Association for Women's Mental Health,
Marce Society; International Society for Psychiatric Disorders
in Childbearing, North American Society for Psychosocial
Obstetric and Gynecology :)
日本精神神経学会欧文誌 (PCN) 児童思春期精神医学領域Field
Editor

子どものこころの診療部では子どもの情緒、行動、認知の問題や精神医学的な障害について診断評価と治療を行っている。臨床で重要なことは、子どもは発達するという視点を持ち長期的な育ちを見守り、育てていく治療者の姿勢である。また同様に重要なこととして、養育者のメンタルヘルスを評価・理解し、それを受容しながら医療的側面から実質的な子育て支援を行うことを強調したい。

近年は、児童精神医学領域を専門にしている診療の場に、発達障害を持つ子どもの受診が増加している。小児歯科医療の現場のスタッフからも、発達障害を持つ子どもを治療する際に、私たちに対して専門家としての協力や助言を求められることも多くなった。当診療部の全受診児の約10%は、低出生体重・身体疾患のためにNICUを利用してしたが、かれらも医学の進歩により、就学までに身体・認知の発達の遅れがみられなくなりキャッチアップする。しかし対人関係の苦手さ、発達のアンバランスさ、学習面での特異的な苦手さなど新たな問題が顕在化している。またこれらの子どもの養育者の約50%が、精神面の健康面が損なわれていることが明らかになった。

しかしながら、養育者の精神面のストレスは、子どもの養育の大変さのために生じた結果であろうか？子どもの誕生は喜ばしい一方、周産期は、妊産婦がストレス関連の問題と精神医学的な障害を最もきたす時期でもある。メンタルヘルスへの取り組みは、近年、産後からではなく、妊娠中から始めるのが理論的にも実践的にも推奨されている。その理由は、イングランドのエイボン地区在住の妊婦を対象に行った一連の大規模前方視的研究から、出産前の母親のストレスや不安が高いと、形成異常（奇

形)、子宮内発育不全や低出生体重児、子どもの誕生後の情緒や発達の長期的な予後まで含めて否定的に関連することが明らかになったからである。

当日は私たちの診療部を受診した子どもの外来統計のデータを示しながら、子どもと養育者の両方への支援が必要であることを解説する。その上で、特に最近対応に追われている発達障害を持つ子どもと親について、その理解の仕方と実際の支援の方法を解説する。